

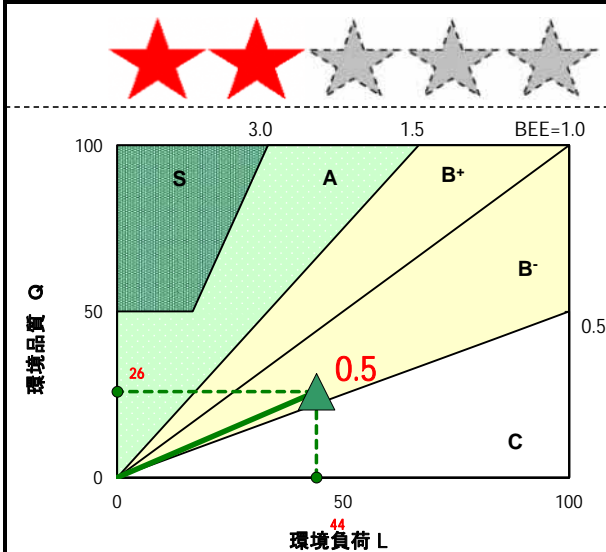


1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	熊本森六化成(株) 新工場	階数	地上2階、地下0階		 <p>外観パース等</p>  <p>下けてください。</p>
建設地	熊本県熊本市東区大字平川字豊町247番2、同247番1、同247番1、同247番1及同247番2	構造	S造		
用途・地域等	工業専用	平均居住人員	0 人		
省エネ・地域区分	6地域	年間使用時間	0 時間/年		
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工時期	2026年10月 予定	評価の実施日	2025年11月25日		
敷地面積	10,377 m ²	作成者	古閑 正次		
建築面積	4,009 m ²	確認日	2025年11月26日		
延床面積	4,627 m ²	確認者	古閑 正次		

2 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



BEE = 0.5

$$\blacksquare \text{BEE (環境効率)} = \frac{\text{Q (環境品質)}}{\text{L (環境負荷)}}$$

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	－
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	－
B [－]	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	－
C	★★	劣る	0.5未満	－

■ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価



評価点

72

評価点

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

82.5

【重点事項2】安全安心で暮らしやすい社会の実現

50.0













【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

72.5

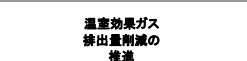
【重点事項4】 循環型社会の実現

72.0

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価	
  	評価点＝ 72
重点事項1：温室効果ガス排出量削減の推進 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">     </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 82.5 重点事項2：安全安心で暮らしやすい社会の実現 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> </div>
重点事項3：県の地域資源の有効活用と保全 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 72.5 重点事項4：循環型社会の実現 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> </div>

重点事項の評価（レーダーチャート）



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
■CCO₂の算定条件等については、「[CCO₂算定条件シート]を参照されたい」

スコアシート		実施設計段階				
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質				評価点	重み係数	全体
Q1 室内環境				-	-	2.0
1 音環境				-	-	-
1.1 室内騒音レベル				-	-	-
1.2 遮音				-	-	-
1 開口部遮音性能				-	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-
1.3 吸音				-	-	-
2 温熱環境				-	-	-
2.1 室温制御				-	-	-
1 室温				-	-	-
2 外皮性能				-	-	-
3 ゾーン別制御性				-	-	-
2.2 湿度制御				-	-	-
2.3 空調方式				-	-	-
3 光・視環境				-	-	-
3.1 昼光利用				-	-	-
1 昼光率				-	-	-
2 方位別開口				-	-	-
3 昼光利用設備				-	-	-
3.2 グレア対策				-	-	-
1 昼光制御				-	-	-
3.3 照度				-	-	-
3.4 照明制御				-	-	-
4 空気質環境				-	-	-
4.1 発生源対策				-	-	-
1 化学汚染物質				-	-	-
4.2 換気				-	-	-
1 換気量				-	-	-
2 自然換気性能				-	-	-
3 取り入れ外気への配慮				-	-	-
4.3 運用管理				-	-	-
1 CO ₂ の監視				-	-	-
2 喫煙の制御				-	-	-
Q2 サービス性能				-	0.43	3.2
1 機能性				-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-
1 広さ・収納性				-	-	-
2 高度情報通信設備対応				-	-	-
3 バリアフリー計画				-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-
1 広さ感・景観				-	-	-
2 リフレッシュスペース				-	-	-
3 内装計画				-	-	-
1.3 維持管理				-	-	-
1 維持管理に配慮した設計				-	-	-
2 維持管理用機能の確保				-	-	-
2 耐用性・信頼性				2.9	0.50	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	-
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				5.0	0.20	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-
2.4 信頼性				2.6	0.20	-
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	-
3 電気設備				3.0	0.20	-
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-
5 通信・情報設備				2.0	0.20	-

3 対応性・更新性			3.4	0.50	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	3.4
1	階高のゆとり	平均階高:5.425m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.09	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			2.6	0.40	-	-	3.4
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		1.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	1.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			1.0	0.40	-	-	1.0
3 地域性・アメニティへの配慮			1.5	0.30	-	-	1.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		1.0	0.50	-	-	3.2
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] : 0.73	3.7	0.63	-	3.7
4 効率的運用			3.0	0.25	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水	節水コマなどに加えて、省水型機器の積極的な採用	4.0	0.40	-	-	3.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60	-	-	3.0
2.1	材料使用量の削減	ALC板の採用	3.0	0.10	-	-	3.0
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	3.0
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	①S造の為躯体と仕上げ材が容易に分別可能、②OAフロアの採用により内装材と設備が錯綜せず解体・改修・更新の際に容易にそれぞれを取り外すことができる	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	3.0
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	1.00	-	-	
3	冷媒		-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
2.1	大気汚染防止	燃焼機器の設置無し	5.0	0.25	-	-	3.0
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	3.0
3	交通負荷抑制	荷捌き用車両の駐車施設の確保、駐車場の導入路を大きく確保し周辺道路の渋滞緩和に努めた	3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	3.0
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	3.0
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	3.0
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明なし	3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-

熊本県重点評価結果 スコアシート ※手動入力は不要		実施設計段階
建物名称	熊本森六化成(株) 新工場	

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		72
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				82.5	0.40	33.00
Q1-2.1.2	外皮性能	0.0	0.00			
Q1-3.1.3	屋光利用設備	0.0	0.00			
Q1-3.2.1	屋光制御	0.0	0.00			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	0.0	0.00			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.29			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.7	0.43			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.14			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.14			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				50	0.20	10.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	0.0	0.00			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.33			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.20			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	1.5	0.27			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.20			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				72.5	0.20	14.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	1.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				72	0.20	14.40
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
※重み係数の総和は、「1」であること。
※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

■ 環境関連の配慮事項

熊本森六化成(株) 新工場

印刷:モノクロ
設定済み

・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作:改行の際は【Alt】キー&【Enter】キーで次の行に進みます。

計画上の配慮事項		※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	壁長さ比率や天井高に余裕をもたせゆとりのある空間を計画した。	
Q1 室内環境	工場用途の為、評価対象外	
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・PF管を採用し、構造部材だけでなく、仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができるよう配慮した。 ・動かせないものを極力無くし、設備や空間のプランニングの自由度を高めた。 	
Q3 室外環境 (敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・空地を設け、敷地内の歩行者空間等へ風を導き、暑熱環境緩和に努めた。 	
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・LED照明を採用し省エネルギーに努めた。 	
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・LGS下地により躯体と仕上げ材が容易に分別可能とした。 ・PF管や二重天井により建物の更新性に配慮した。 	
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイクルCO2排出率70%と、CO2の排出を極力抑えた設計とした。 	
その他	特になし	